

平成25年10月発生の台風26号による伊豆大島土石流災害について聞き取り調査を行いました (2014/1/21-22)

テーマ：台風26号，土石流災害，伊豆大島
場所：東京都大島町

平成25年10月に発生した台風26号による大雨の影響で，東京都大島町(伊豆大島)では土石流が発生し，死者36名，行方不明者3名，破壊家屋385棟の被害が報告されました。1月21日～22日に，当研究所のサッパシー・アナワット准教授（寄附研究部門）と保田真理助手（災害リスク研究部門）が伊豆大島を訪問し，当時の現場での対応，現在の復興状況などについて調査を実施しました。21日は，大島町役場で大島町防災係長と伊豆大島火山防災連絡事務所担当者への聞き取り調査を行いました。今回の災害が発生するまでは，大島町では火山噴火・地震・津波に対しては十分備えをしていますが，大島の地質が溶岩や火山灰のため大変水はげがよく，近年は大雨でも土砂災害の経験がなかったために，台風・土石流災害に対する備えは十分ではありませんでした。今回のような短期間で極端な大雨は観測史上初めての経験であり，雨量のピークが午前3時～4時であったために対応できなかった状況が，確認できました。

土砂災害の規模が大きかったのは，町役場に近い元町地区でした。地元住民によると，元町地区の中でもこの地域には以前は人家が無かったが，経済バブル期以降に宅地開発が進み，人家が建てられ，住民も増えていったことが分かりました。以前から建設されていた砂防ダムも，流木等で水を受け入れることができず，被害地域に水の流れと土石流が集中したと解りました。

仮設住宅は空港近くの，現在は使用されていない小学校の校庭に建設されています。1月25日以降入居予定で，棟と棟の間は広めに空間がとられており，南側には濡れ縁も作られ，東北地方の仮設住宅に比べ，ゆったりとしたイメージです。高齢者が多いため，各棟にスロープが設置されており，島の特性上，自動車の保有率が高いため，駐車場も広く確保されています。また，町の説明では，旧住居の地域ごとにコミュニティが維持できるような配慮もされているとのことです。町としては，今後住民の意思を確認して，コミュニティごとに住む地域を選定する事を考えていますが，65歳以上の高齢者世帯が多いため，自立再建が困難な世帯も多いとの事です。島では昔から核家族性で，親と同居するという風習がない点も，今後の復興に大きく影響すると思われる。また，地滑り現場をジオパークとして保存活用する計画も検討されています。



聞き取り調査



仮設住宅



災害現場の現在の様子



災害現場の現在の様子